

令和５年度 第１回尾張旭市地域づくり懇談会 会議要旨

1 開催日時

令和５年９月１２日（火）午後１時３０分から３時３０分まで

2 開催場所

尾張旭市役所南庁舎３階 講堂２

3 出席した構成員

６名

高橋 眞知子（名古屋経営短期大学、座長）、大川 正喜（尾張旭市商工会）、
水野 恵介（あいち尾東農業協同組合）、横山 史佳（尾張旭市観光協会）、
今井 透（瀬戸信用金庫、酒向清治代理出席）、
寺師 麻由（グリーンシティケーブルテレビ株式会社）

4 欠席者

０名

5 傍聴者数

０名

6 出席した市職員

(1) 企画課

課長 谷口 洋祐、課長補佐 寺尾 綾、政策企画係長 田中 広樹、
政策企画係主査 北川 歩、政策企画係主事補 伊藤 舞香

(2) 産業課

商工振興係長 原 靖之（オブザーバー）

7 議題

- (1) 「まち・ひと・しごと創生第２期尾張旭市総合戦略」令和５年度評価状況（令和４年度実績）について
- (2) 次期尾張旭市総合戦略について

8 会議の要旨

(1) 議題

① 「まち・ひと・しごと創生第2期尾張旭市総合戦略」

令和5年度評価状況（令和4年度実績）について

- ・ 8ページの「戦略02工業の振興」について、尾張旭市は企業誘致などで独自の施策は取っているか。
⇒企業誘致に直接つながる施策は行っていない。近隣の自治体では、工業団地を持っていたり、誘致する際に規制の緩和を行っていたりしているところもある。企業誘致というと、大きな工場等を思い浮かべるが、本市には大きなまとまった土地がないことが課題の一つであり、そういった意味では、地元の方の理解も必要であると考えます。（市）
- ・ 若手の事業者のために小規模な建物を管理し、そこに誘致するような取組ができるのではないかと思います。若手の人に対する支援や設備を整備しようという考えはあるか。
⇒建物の管理については、現状は考えていない。インキュベーション施設や愛知県の「STATION Ai」等の動きを注視していく。（市）
- ・ 地域特産品出荷量が減っているが、耕作放棄地は減少しており、認定農業者数は減少していない。それでも出荷量が落ちているというのは、生産性が減少しているということか。
⇒イチジクの樹木の老朽化や生産者の高齢化が影響している。（市）
- ・ 木が老朽化し、生産量が減っていくことは十分に計算できることであるため、それに対する手を打っていくことはできるのではないかと思います。
- ・ プチヴェールは市の特産品であるので、市民祭でレシピコンテストや、小学校の給食で出すなどの取組を進めることで、家庭の食卓でも使ってもらえるのではないかと。また、家庭科の調理実習で使用しても良い。
⇒あいち尾東農協の協力を得て、学校給食で提供している。また、市では、毎年、健康朝食メニューを募集している。工夫を凝らしたものが出てくるが、プチヴェールを活用したメニューはあまり上がっていない。（市）
- ・ グリーンシティケーブルテレビ株式会社は、定期的に市内小中学校や保育園へ取材に行くことはあるか。
⇒イベント等があると取材に行くことがある。
- ・ 小学生、中学生や地域の人についても、取材されてそれが放映されると嬉しいのではないかと感じる。グリーンシティケーブルテレビ株式会社には、そういった面を補完していただき大変有難いと感じている。
- ・ 瀬戸信用金庫では、地元商店が抱えている大きな課題等を把握しているか。

⇒商工会や市等と一緒に創業セミナーを実施している。全国的には創業より廃業の数が上回っている状態。それは、人口が減少していることが原因だと思う。経営者の高齢化が進み後継者がいないといった問題が出ている。

- ・資料の基本的な考え方にある、尾張旭市の地域特性とは何を指しているのか。

⇒都市基盤整備などにより住みやすい住環境を指している。（市）

- ・尾張旭市の地域特性を踏まえて、尾張旭市ならではの取組があると良い。総合戦略の基本的な考え方に則った施策を期待したい。

- ・商工会では、事業の後継者不足により、廃業してしまうといったことが本懇談会の設置当初から話が出ているが、事業承継についての取組はどうか。

⇒廃業する方の多くは、静かにやめ、その後は静かに生活を送りたいという方が多い。事業承継のマッチングなどを案内しているが、従業員に事業承継したいといった相談が一年当たり1・2件ある程度。事業承継が増えていくといった話は出てくるが、実感はない。

- ・7ページの「戦略01 商業の振興」の2つ目の指標に各種制度活用による経営力向上に取り組んだ商店数が79件とあるが、もっと多くあるのではないかな。

⇒融資制度の活用数で実績値を取っているため79件となっている。（市）

- ・新型コロナウイルス感染症が5類に変更され、観光の状況はどうか。

⇒今年は紅茶フェスティバルの出店などについても増えているため、観光客数は増加していくのではないかなと思う。

- ・防災や減災に関する取組はどうか。

⇒市の災害対策本部の他、各地域に自主防災組織があり、地域によっては活発に活動している。毎年防災訓練を実施し、地域防災力を高めることに取り組んでいる。市長も防災・減災を公約に掲げており、様々な防災拠点の検討も進めている。また、雨水排水設備の計画の改定を予定している。（市）

- ・グリーンシティケーブルテレビ株式会社では、市からの委託を受け、河川の監視カメラを設置している。ウェブ上で河川の状況が見られるといった取組も行っているなので周知をしていきたい。

② 次期尾張旭市総合戦略について

- ・計画期間が「10年間 第六次総合計画と同一」とあるが、どういう意味か。

⇒第六次総合計画と一体的に策定することとしているので、それに合わせて第六次総合計画と同一と記載している。

総合計画は、従来は地方自治法に規定に沿った計画で、市の最上位の計画となる。一方総合戦略については、この尾張旭市地域づくり懇談会でKPI等を確認していただいているものになる。

- ・2ページに、尾張旭市の人口推計がある。より重要なのは年齢分布（構成）だと

考える。また、2025年の10年前は、スマホができた年で、10年間で世の中は大きく変わった。そのため、デジタルの力を活用しつつ尾張旭市独自のアナログの魅力を強みとして活かしていけるように望んでいる。

⇒計画策定の参考とする。（市）

- ・デジタルがキーワードになっているが、市民がついていけない恐れがある。デジタルでは動けない人をどのように取り込んでいき、市のデジタル化にスムーズに対応していくかが重要である。

⇒グリーンシティケーブルテレビ株式会社と尾張旭市は連携協定を締結し、高齢者向けのスマホ講座などを実施している。

- ・施策の方向性の1つ目の「楽しさ」が良いと思った。具体的な取組はあるか。
⇒今後、市民の皆さんに「楽しさ」を感じてもらえるよう検討していく。地域の団体等の皆様に是非ともそういった視点の御意見をもらいたい。（市）

- ・様々な取組が楽しさといった視点で進められると良い。

- ・広報の行い方をどのように考えているのか。

⇒市の情報発信をする媒体として、広報誌は欠かせないものとなっている。現在広報誌の在り方として、催し物中心から読み物として面白い広報誌を検討している。本市は月に2回広報誌を発行しているが、県内自治体の多くは月に1回発行しているため、そういったことも踏まえて見直しを進めている。

（市）

- ・大曽根駅に「旭色」の大きなポスターがあって、素敵であった。そういったものを公民館などだけではなく、駅やスーパーなど一般の市民の目に入るところに掲出して、普段広報誌を見ない無関心な人に積極的に発信してほしい。

⇒瀬戸信用金庫の支援を受け、尾張旭駅に大きな看板を設置した。先ほど話にあったように、デジタルとアナログを使い分けて広報していきたい。（市）

- ・農業について、デジタル農業などとよく聞くが市内の農業には関係しているか。

⇒農業やっている方は、デジタルに疎い方が多いため、スマホ教室を行っている状況。

- ・グリーンシティケーブルテレビ株式会社では、温度センサーなどを扱っている。

例えば美術館などで温度管理をするなどスマホ一つで管理することができる。協力できることがあるのではないかと思います。

(2) その他

企業版ふるさと納税について

- ・事業者からあまり聞かないため浸透していない状況だと思う。市外の企業が、尾張旭市への寄附にメリットを感じなければいけないため難しい。
- ・近隣自治体は、実施しているのか。

⇒実施している。（市）

- ・市内にあるレストランなどに対しPRしてくのはどうか。また、三郷にある大型スーパーなどをPRの対象としてはどうか。市民が利用している店舗や団体に働きかけることが有効ではないか。
- ・寄附の多くは「縁」などがきっかけになることが多いと聞く。
- ・SDGsに関連付けてPRすることも可能ではないか。
- ・他市町（瀬戸市等）の取組方法を参考とするのもよい。

⇒取組の参考とさせていただく。（市）